（別紙様式）

令和３年度　学校自己評価システムシート　（県立和光南特別支援学校）

W46

目指す学校像	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進し、「生きる力」を育成する学校

重点目標	
	1 充実した授業づくり 2 開かれた学校づくり 3 健康で安全な学校づくり 4 進路指導の充実

達成度		
	A	ほぼ達成　(8割以上)
	B	概ね達成　(6割以上)
	C	変化の兆し　(4割以上)
	D	不十分　(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者		
学校関係者	10 名	
生　徒	3 名	
事務局(教職員)	5 名	※書面開催

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（2月3日）日現在）			実施日令和4年3月14日（書面） 学校関係者からの意見・要望・評価等
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	【現状】 平成３１年度から２年間にわたり、研究部を中心とした学校研究において新学習指導要領に対応した実践研究に取り組んできた。 【課題】 今後は、ＰＤＣＡサイクルの手法を活用し、指導内容や指導方法、評価等の見直し及び改善を行う必要がある。 ついては、実施方法や内容等を検討しながら教育課程の更なる充実を図り、研修会等をとおして新学習指導要領の理解を深める取組の実施が課題となる	・学校研究のテーマである「主体的・対話的で深い学びの視点で考える」授業実践の充実	①新学指導要領の下、授業実践、研究を行い、PDCAサイクル手法による授業の質の向上を図る。 ②新学習指導要領についての理解を深める研修会を実施し、教育活動の質的向上につなげる。	職員及び保護者アンケートで次の質問の肯定回答を評価指標とする。評価の目安は、肯定回答80%以上をA、80～60%をB、60～40%をC、それ以下をDとする。 ①PDCAサイクルをもとに授業研究を行い、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業を実践できたか。 ②新学習指導要領に関する理解を深める研修会が実施できたか。 ②新学習指導要領に基づいたねらいや評価等を指導案や授業内容に反映できたか。	①研究部を中心に新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」、「育成を目指す資質・能力の三つの柱」などの内容の理解を深める研修(8月26日)を行った。 ②年間を通じて年次研、学部ブロック研究などにおいて研究授業を32回以上行い、授業の質的な向上につなげ、ねらいや評価を指導案に反映できた。保護者アンケートでは、95%以上の肯定的な回答を獲得した。	A	引き続き、新学習指導要領をもとに、児童生徒一人一人の実態に応じた授業力の向上を図る。加えて、新学習指導要領を踏まえながら、児童生徒のニーズに応じた目指す学校像の再考が課題となる。	・新学習指導要領の改訂については、「各教科」が重要であり、研究授業のねらいが新学習指導要領のねらいや内容と一致しているかがポイントである。 ・教員自ら「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を強く意識して、授業(1単位時間)の実践に間わないと実現できない。 ・児童生徒一人一人の実態把握に課題がある。自己キャリア形成を関連付けながら、活動を振り返り、次につなげられるよう取り組めるとよい。保護者アンケートでは見えない問題点があることを受け止めてほしい。
2	【現状】 ケース会議等の実施は、校内関係者や外部関係機関と常に連携し、適宜実施してきており、地域社会において、本校への一定の評価はあるものと考えられる。一方、HPなどによる本校の情報発信はさらに充実させる余地がある。 【課題】 今後更に、近隣他校の必要に応じた支援の充実、早期の就学相談の実施、本校のセンター的機能の発揮及び充実を図っていきたい。	・センター的機能の一環として、校内外の障害特性から行動に課題のある児童生徒等に対して対応を組織的に実施する	①障害特性から行動に課題のある児童生徒等に対して、校内外、地域の関係機関と連携し、適宜ケース会議、相談等行う。 ②和光市、朝霞市、新座市等の学校へ訪問し、指導助言等を行う中で障害児者への理解を深める。	①特に課題のある児童生徒に対して、適切なアドバイス、ケース会議等は適宜に実施され、対応できたか。 ②学校訪問を行い、課題に応じた指導助言ができたか。	①②センター的機能の一環として、障害特性から行動に課題のある児童生徒等の校内におけるケース会議36件、外部への巡回相談120件(1/7現在)実施した。支援籍学習は、コロナ禍のため実情に応じ方法を工夫して実施した。	A	本校のセンター的機能の実績としては、かなりの成果を上げているが、保護者アンケートによると保護者の理解度が低めに出ているため、ホームページ等を通じて周知していくことが課題である。	・保護者への対応については、子育てに苦労している家庭へのより手厚い支援も今後考えていかなくてはならない。→外部関係機関と連携を図って行っている。 ・ケース会議、センター的機能報告など、成果や今後の改善点などを具体的に示してほしい。
		・ホームページ等を活用した学校教育活動の積極的な発信	①ホームページを活用しやすいように整備する。 ②個人情報に配慮しつつ、学校情報を積極的に更新する。 ③メールやホームページの保護者向け連絡機能を有効活用し、必要な情報を適宜提供する。	①ホームページ等を活用しやすいように整備できたか。 ②月に1度以上を目安に教育活動、通知等の情報発信ができたか。 ③家庭のメール登録が100%に近づけられたか。 ホームページ掲載前に保護者へメール発信するなど必要な情報を適宜提供できたか。	①ホームページを活用しやすいように整備し、保護者専用のページで情報発信した。 ②月1回以上の教育活動も発信できた。 ①③学校評価アンケート、ワクチン接種希望の登録受付などでホームページを活用し、実施することができた。ホームページやメールなどによる情報提供についての保護者アンケートで95%の肯定的な回答を獲得した。	A	・保護者や職員が活用しやすいホームページの運営、適切なメール配信をさらに充実させる。 ・コロナ禍におけるICTを有効活用した教育方法の構築や教育コンテンツ充実の推進が課題となる。 ・地域社会のニーズに応えうる本校の在り方について工夫を図っていきたい。	・保護者や職員が活用しやすいホームページの運営、適切なメール配信をさらに充実させる。 ・コロナ禍におけるICTを有効活用した教育方法の構築や教育コンテンツ充実の推進が課題となる。 ・地域社会のニーズに応えうる本校の在り方について工夫を図っていきたい。
3	【現状】 昨年度は、学校管理下における感染対策を徹底して行ってきた。また、高等部の生徒減(学区再編)に伴い、教職員減となり、校務分掌等の枠が職員数と合わない状況が生じている。 【課題】 今年度も引き続き感染予防を徹底する他、事故等の未然防止のための具体的な取組が必要である。また、業務内容を見直し、効率化を図りながら分掌の合併等を検討することが課題である。	・安心安全な学校生活のため、教育環境に配慮し、無事故、新型コロナウイルス無感染を目指す。	①全教職員でヒヤリハット案件を共有し、学校全体で組織的に事故の未然防止策や解決策を共有する。 ②学校内の消毒、手洗い、マスク着用等の指導を徹底し、感染予防対策に取り組む。	①ヒヤリハット案件について、組織的に事故の未然防止に役立て、事故は0(ゼロ)であったか。 ②学校管理下において、新型コロナウイルスの感染者は0(ゼロ)であったか。	①ヒヤリハット案件は、職員朝会で共有し、大きな事故を未然に防ぐことができた。 ②7月より関係者以外の外部者の立入を禁止し、新型コロナウイルス感染に対して組織的に徹底して取り組めた。1月中旬までは、コロナウイルス感染者がゼロであったが、下旬からオミクロン株が急拡大したことに伴い、感染者が増加した。保護者からは、感染対策、健康面に配慮した教育活動の質問に対して、98%の肯定的な回答を獲得した。	B	引き続き、感染予防対策を徹底し、適切な情報収集及び迅速な対応により、感染拡大の防止に努めていく。安心安全な教育環境を整備し、感染や事故の未然防止策を講じていく。また、学習保障のための具体的な取組が課題となる。	・コロナウイルス感染への対策は「これで良い」という境界はないような気がする。 ・ASDや重複の子どもたちへの感染対策の指導についてはどうだったのか。コロナだけでなく、今後の衛生管理のためにもぜひ指導の継続をお願いしたい。 ・連絡帳の誠実なやり取りや教員間での情報共有、報連相など気になることがあった。
		・職員減に伴い、校内分掌の仕事の見直し、効率化を図り、分掌組織の統合・合併を行う。	①仕事の偏りをできるだけ均等化することとと仕事の効率化を図るため、分掌の仕事内容の見直し、分掌組織の統合・合併を検討する。	①分掌等の仕事内容の見直し、効率化は行えたか。 ①分掌組織を統合・合併できたか。	①高等部の縮小に伴い、企画委員会内で分掌組織の統合・合併プロジェクトチームを発足させ、13分掌から11分掌に統合合併を行った。 ①各分掌の業務内容の見直しや削減、組織のさらなる削減において課題が残った。	B	各分掌の業務内容の見直しや、組織の削減に課題があり、次年度も引き続き思い切った業務内容の見直しを検討していく。今年度は所期の目標を達成できたが、さらに働き方改革の視点から計画的に業務内容の見直しと効率化を図り、教職員の負担軽減を推進する。	
4	【現状】 外部の関係機関と連携して、保護者の進路希望のニーズに寄り添った進路指導を推進している。その他、「職業教育フェア」の幹事校としての役割が期待されている。 【課題】 進路目標が多様化する生徒に対応して、進路実現を目指すために、校内組織の連携を深め、さらにニーズに応じた進路希望の実現が課題となる。また、「職業教育フェア」の幹事校として、県内の特別支援学校や関係機関と連携し、スムーズな運営、実施が課題である。	・就労先の求めている力を的確に把握し、生徒の適性を見極め、個に応じた進路実現を図る。	①各市関係課、ハローワーク、商工会等の外部関係機関と連携し、教育に求められる力を把握し、進路指導に活かす。	①進路先で求められる力を把握し、生徒への進路指導に活かすことができたか。 ①本人、保護者の意向と適性を把握し、個に応じた進路指導を実現できたか。 ①外部機関と連携し、適切な情報提供を行えたか。	①学部ブロックごとの職員向け研修や高等部の保護者会で進路指導に関する啓発を行った。また、外部関係機関と連携し、現場実習、連携会議を行い、生徒に応じた就労先、進路先の指導に取り組めた。希望進路の状況は、おおむね達成できている。(企業就職8名、福祉事業所19名、入所1名)	B	各関係機関と連携を図りながら、進路指導の充実を図ると共に、12年間を見通した系統的、組織的な進路指導の体制を確立する。進路指導の全体像を一望しうる工夫を講じ、ホームページなどで広く周知できるようにするなどの取組が必要である。	・大変な中での進路指導お疲れさまでした。今後は、専門学校や職業訓練校などの進路を希望する生徒の対応、それに合わせた高等部の教育課程も求められるかもしれない。 ・職業教育フェア、とても素晴らしい実践だと思う。
		・幹事校として「職業教育フェア」を滞りなく運営・実施する。	①職業教育フェアの目的に則り、県内の特別支援学校や関係諸機関と連携し、障害児者理解の促進と進路拡大に向け滞りなく「職業教育フェア」の運営を行う。	①「職業教育フェア」を円滑に運営・実施できたか。	①コロナ禍の中、感染防止対策を講じ、幹事校として「職業教育フェア」を滞りなく運営・実施した。会場での開催を1日とし、加えて初めてWEB上で同時開催するなど工夫を加えた。当日の来場者数は160名、WEB上の視覚数は1774(2/5現在)であった。	A	次年度の幹事校に今回のノウハウを伝え、障害児者理解の促進と進路拡大に向け、より良い「職業教育フェア」の運営につなげていく。	

（別紙様式）